

学会ホームページ <http://jasce.jp>

029号(2015年11月28日)

目次

日本協同教育学会第12回大会報告
次期大会開催地
『協同と教育』第11号の発行
学会ワークショップ 今後の予定
出版情報
協同ワークショップ
＜アドバンス＞を開催
国際協同教育学会(IASCE)
オーデンセ大会の報告
各地の研究会・勉強会

日本協同教育学会第12回大会報告

大会テーマ
協同教育の組織的な取り組み

10月16日から18日の3日間、第12回の全国大会が久留米大学(福岡県久留米市)で開催されました。研究発表・実践発表・ラウンドテーブルは計38件、講演やワークショップ・フォーラムの企画は計15件で、参加者は200名を越えました。

初日は、午後から久留米市立南筑高等学校で授業公開が行われ、参観後、授業ごとの意見交換会が開催されました。

二日目は、研究発表(10件)、実践

発表(8件)、ラウンドテーブル(4件)、ワークショップ(4件)、フォーラム(2件)のほか、藤村宣之氏(東京大学)による記念講演「個の学びを高める授業づくりー協同的探究学習による「わかる学力」の形成ー」など盛りだくさんの内容で、どの会場でも会員は熱心に討議に参加していました。また、総会では長年、協同教育の発展に寄与された高旗正人先生に名誉会員証を授与しました。夕方の情報交換会に約100もの参加があり、全国から集まった仲間との交流を深めました。

三日目は、研究発表(3件)、実践発表(12件)、ラウンドテーブル(1件)、ワークショップ(4件)、フォーラム(3件)、小講演(1件)がありました。

昨年の大会以上に、研究発表・実践発表・ラウンドテーブルの発表数が増えた上に、ワークショップやフォーラムがより多彩に企画されたのが今年の特徴でしょう。日本全国からたくさんの皆様にご参加いただいて、実りの多い交流をすることができました。

次期大会開催地

明年の第13回大会は、三重大学を会場に10月から11月頃に開催される予定です。詳しいことが決まり次第、またこのニュースレターでご報告いたします。

『協同と教育』第11号の発行

『協同と教育』第11号(2015年)を発行しました。お手元でご活用いただければ幸いです。『協同と教育』への投稿は随時受け付けておりますが、投稿受理から査読を経て採択が決定されるまでに通常、数ヶ月を要しま

す。学会機関誌『協同と教育』第12号(2016年発行)に向けての積極的な投稿をお待ちしています。

学会ワークショップ 今後の予定

● ベーシック

3月12日(土)～13日(日)

会場：(別府市)
大分県社会教育総合センター
講師：秦喜美恵・安永悟

● ベーシック

3月20日(日)～21日(月)

会場：創価大学(八王子市)
教育学部棟4階B405教室(受付)
講師：太田昌宏

● アドバンス

3月20日(日)～21日(月)

会場：創価大学(八王子市)
教育学部棟4階B405教室(受付)
講師：伏野久美子

※受付状況は日々変化します。お申し込み方法は以下のアドレスにあります。(http://www.jasce.jp/

1031workshop.php)

出版情報

○改訂増補 協同学習ツールのつくり方いかし方：看図アプローチで育てる学びの力

「アクティブ・ラーニング」を視野に入れた改訂増補版です。協同学習を取り入れた授業づくりに役立つ「協同学習ツール、ビジュアルテキスト」を紹介しています。鹿内信善著。ナカニシヤ出版。

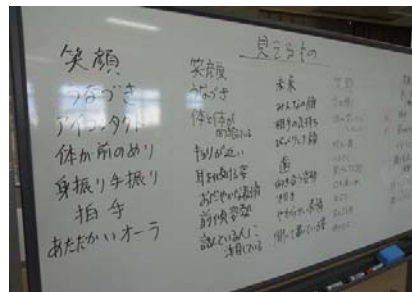


JASCE

協同ワークショップ<アドバンス>を開催

11月14・15日の両日、名古屋において南山大学人間関係研究センター主催の協同学習ワークショップ(アドバンス)が関田一彦先生を講師として開催されました。参加者は35名で、「『自立した学習者の育成』という観点の重要性を具体的に知ることができた」「現在行っている授業をふりかえって改善する点を見つけることができました」

「多くの他職種の方々、また生徒に真剣に向き合いたいと考えている方々と出会えて満足です」などの感想が寄せられました。なお、今回のワークショップには学会から長濱文与先生(三重大学)和田珠実先生(中部大学)にも参加いただき、充実した研修の機会になりました。(石田裕久)



国際協同教育学会 (IASCE) オーデンセ大会の報告

2015年10月1日～3日にわたり、デンマークのオーデンセで国際協同教育学会が開催されました。参加者170名というこじんまりとした大会でしたが、美しいデンマークのオーデンセで開催された大会は本当に素晴らしい大会でした。

学会は9月30日のプレ大会としての学校訪問から始まりました。4グループに分かれて、それぞれ別の学校をじっくりと見学してきました。

10月1日から始まった大会は和やかで、楽しく、みんながすぐ仲良くなる大会でした。まず、開会のあいさつからグループ活動が開始し、様々なワークショップや論文の発表もすべてが参加者を巻き込むインターアクティブなものでした。今大会のハイライトはなんといっても協同学習の大御所のジョンソン兄弟が参加したことです。二人の名コンビは健在でした。協同学習の基本原則について、グループワークをはさみながら講演されました。ご高齢にもかかわらずお元氣な姿を拝見で

きたのは、とてもうれしかったです。また、協同学習の源を築かれたモートン・ドイチュもビデオインタビューで参加され、感激でした。

発表やワークショップ以外にもいろいろなイベントが用意されていました。大会ディナーでは、食事が進むにつれ、さらに和やかになり、日本人が先陣を切って「さくらさくら」の歌を披露し、そのあとは各国の歌合戦のような感じで盛り上がりました。表彰式では、長年の功績を称えてジョンソン兄弟、ドイチュ、ヤエル・シャランに表彰状が贈られました。研究興味に分かれてそれぞれ地元のレストランで会食をするという企画もありました。

日本からは9名の方が参加されました。みんな新しい友達の輪を作ったようでした。その中のお二人から感想をいただきました。「今まで出席したIASCEのなかで一番印象に残っています。参加者のみなさんとじっくり話しをする場所と時間があったこと、会場の広さが参加人数に対して適切だったこと、プレイベントの学校訪問を含めプレナリーや発表以外のイベントが周到に用意されていたこと、街の落ち着いたこと、ちょうどculture nightが行われていたこと、など様々な要因があったと思います。」「オーデンセ(デンマーク)は遠いな、というイメージでしたが、学会はとても素晴らしく、研究発表、ワークショップ等を通して多くの方とお話することが出来ました。街中の散歩ツアーにも参加させてもらい、オーデンセの古い街並みに感動しました。」私自身も同様の感想を持っています。日本からもっと多くの方がいらっしゃれたらどんなによかったか、と思いました。

次回開催の場所と日程が決まり次第、ニューズレターでお知らせいたします。ぜひ、JASCEメンバーからたくさんの方が参加することを期待しています。ほとんどの人が英語を母国語としない人たちで、みんなお国訛りで、人によってはとつとつと話します。心配はいりません。楽しくて友達ができ、新しい学びを作っていけるのがIASCEの大会の特徴だと思います。

(伏野久美子)



(左) ジョンソン兄弟と日本人参加者二人 (中) 大会ディナーでの自国の歌を歌う人々 (右) 日本人発表者

JASCE

各地の研究会・勉強会

(東京・関東地域)

協同教育カフェ in 八王子

11月7日(土) 13:30から16:30、今年3回目の協同教育カフェ in 八王子が創価大学教育学部棟で開催されました。6人の常連メンバーに新来者が1人(私を入れて計8名)のこじんまりした集いでしたが、常連メンバー全員が実践報告する高密度な3時間でした。それぞれの実践課題や今考えていることなどストレートに交流できる場は貴重、という参加者の声に応え、次回は、1月16日13時半から開催する予定です。連絡先: 関田一彦

(sekita@soka.ac.jp)

協同教育プロジェクト・国際シンポジウム

IASCE(国際協同教育学会)会長のLynda Baloch先生が来日されます。明年2月27日(土)午後、創価大学の協同教育プロジェクトが企画・開催するシンポジウムに、シンポジストとして参加の予定です。翌28日(日)にはワークショップも計画されています。現在調整中ですが、年内には学会HPで詳細をご案内いたします。

(名古屋・東海地域)

名古屋・協同の学びをつくる研究会

◇11月例会の報告

11月例会を11月17日(火)、19:00から名古屋大学教育学部で開催しました。テーマは「中学生の自立した学習態度形成のためのチューター制の可能性、報告者は南山学園聖霊中学・高等学校教諭、鈴木稔子先生。大学生ボランティアを小中学校の学習支援にいかす試みは、いまや日本



各地にひろがりつつあります。大学生の参加形態は各地でさまざまですが、①大学生(チューター)と「協働」した子ども主体の学び、②子どもの成長を真ん中においての、大学生と学校(教員)との「協働」という二重の関係性による複層的な学びは、従来の学校教育にはなかったものです。セーフ・プレイス(安全な学びの場)の大切さ、教えない学びの可能性、ピア・チュータリングの意義などについて深い議論が行われました。

連絡先: 水野正朗

(mizunokita@yahoo.co.jp)

(大阪地域)

協同学習を用いた看護教育研究会

◇第8回研究会の報告

11月27日(金)19:00から第8回研究会を開催しました。第35回日本看護科学学会学術集会(12/5.6 広島)の交流集会で緒方・北村・牧野・鮫島チームが発表する「看護教育におけるアクティブ・ラーニングとしての協同学習の意義と可能性」について、プレ交流集会を行い、研究会参加者とディスカッションしました。また、宇野真由美先生から「基礎看護学技術演習に協同学習を取り入れた学生の初期

の状況-テキストマイニングによる分析-」についての研究報告がありました。参加者は19名でした。

◇今後の開催予定

場所: グランフロント大阪北館2階

「ナレッジキャピタル The Lab」

アクティブスタジオ

日程: 2016年1月29日、3月18日

時間: 19:00~21:00

連絡先: 緒方巧(梅花女子大学

t-ogata@baika.ac.jp)

(岡山・中国方面)

協同学習研究会

◇今後の開催予定

第4回: 平成28年3月5日 鳥取県立智頭農林高等学校のご発表

会場: 岡山大学教師教育開発センター東山プラランチ

時間: 14:00~17:30

参加を希望される方は、事前に高旗までメールでご照会ください(会場の関係で定員を設定しています)。また、次年度以降の発表希望の申込みも受け付けています。

連絡先: 高旗浩志(岡山大学教師教育開発センター

takahata@okayama-u.ac.jp)

(福岡・九州方面)

授業づくり研究会

◇今後の開催予定

場所: 久留米大学御井キャンパス

日時: 12月12日 13:00~17:00

各イベントの参加申込みは安永悟研究室のHPからお願いします。

(<http://yasunaga.me/wiki.cgi>)

連絡先: 安永悟

(yasunaga_satoru@kurume-u.ac.jp)

各地でワークショップや研究会が精力的に行われています。学会HPでご確認ください。

また、会員による実践研究会等の開催や本の出版等がありましたら広報委員会(koho@jasce.jp)まで情報をお寄せください。